

平成26年8月9日（土）

於：鳩原東端遺跡現地

河内長野市鳩原所在

## 鳩原東端遺跡 現地公開資料

大阪府教育委員会

### はじめに

鳩原東端遺跡の発掘調査は、大阪府環境農林水産部の実施する「府営農村振興総合整備事業」に先立って、6月からは一部を確認調査、7月からは本格的な発掘調査を実施しています。

調査地は上下2カ所に分かれていて、今回は下段の調査地の平安時代末から中世にかけての生活面を公開します。また、これまでに発掘調査を実施した太井遺跡や鳩原遺跡で出土した遺物も、一部展示いたしておりますので、合わせてご覧ください。

### 調査成果

現在、発掘調査を実施している下段部分の調査成果を、確認調査の成果も踏まえて述べたいと思います。今回の調査では、この地域の土地利用の変遷が明らかになったということです。

元来、この付近は谷底に向かってかなり急峻な斜面であったと思われます。

ところがその斜面上に、人為的なものか、自然の土砂崩れによるものかわかりませんが、大量の土砂が堆積します。この土砂によって急峻な斜面は、緩やかな地形と変わります。土砂の堆積がいつ起こったのかははっきりしませんが、確認調査では縄文土器が出土しています。その上面を整地して人々が生活を始めるのが、平安時代の終わりごろです。整地した面からは、平安時代末から中世にかけての柱穴、土坑や溝など住居関連の遺構が検出され、その上に中世の遺物を含む土砂が堆積します。江戸時代になると付近一帯は水田化され、棚田が形成されました。宅地は集村化して、現在のような景観になったと考えられます。現在は発掘調査の途中です。詳しい事は今後の調査と検討によって、明らかにしていきたいと思います。

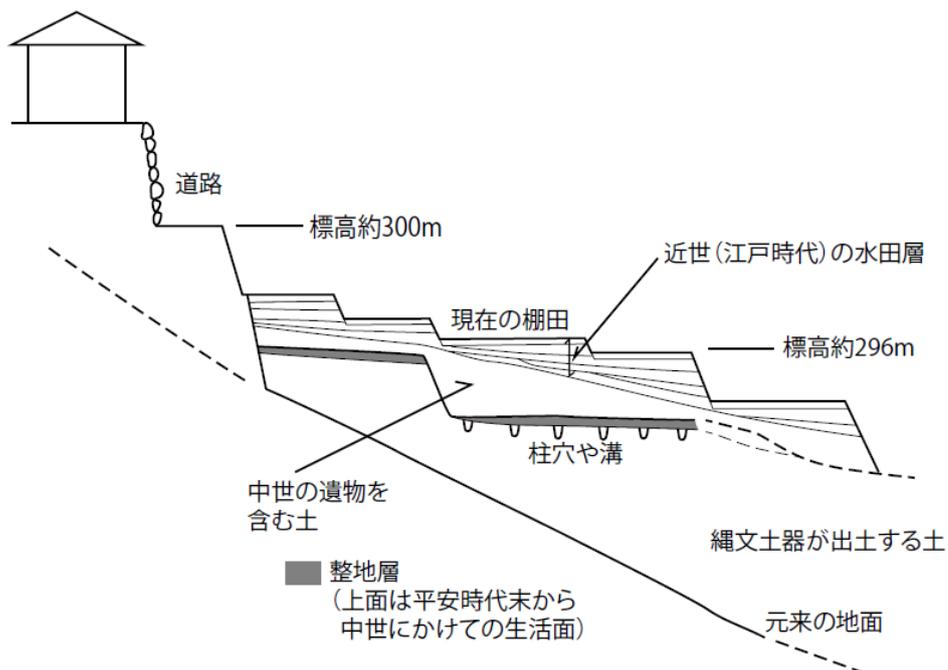


図1 鳩原東端遺跡の土地利用模式図

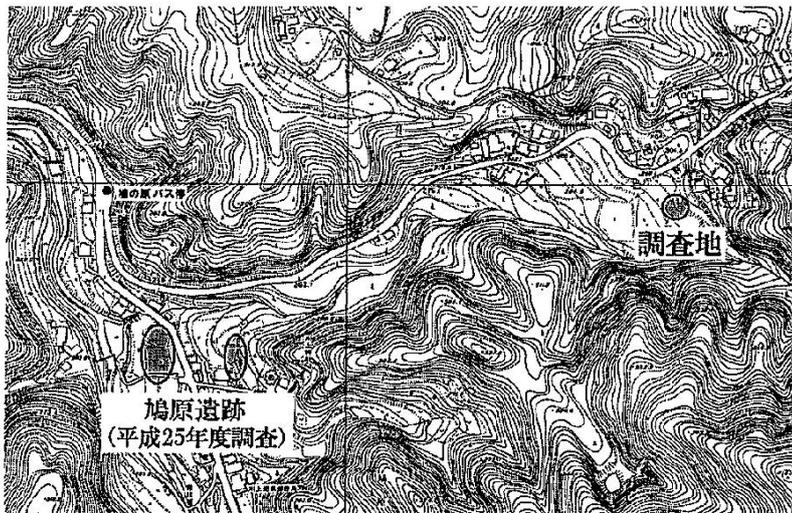


図2 調査地位置図



写真1 中世の鋤溝



写真2 ゴミ穴



写真4 礎石をすえた柱穴



写真3 お椀を入れた  
平安時代の小さな土坑

図3 今回の遺構配置図